

勘違いしてしまうようなことは避けなければいけません。飛び級を経験した後、元々いたカテゴリーに選手を戻してみてください。そのときに、上級生チームでの経験をうまくチームに還元できるようであれば問題ないと思います。しかし、自身がハイレベルな世界を経験したことで「お前らは（オレたちと違つて）下手だな」などという態度を取るようであれば、逆効果にさえなりかねないと思います。謙虚に自分に足りていらない要素を自覚して、解決に向かつて基本的に取り組む姿勢こそが選手を成長させます。そうした姿勢を奪うような効果があることは、貴重な経験も台無しです。ケースバイケースですが、複数の選手に「飛び級」を経験させて、入れ替ながら行なうことができれば一つの対処法になると思います。

同学年の中で切磋琢磨しながら一つ上の学年のサッカーを経験することで、勘違いをしてしまうリスクを軽減し、自分の課題を高く明確に持つことができるからです。

また、「飛び級」を経験する際は、先述の「勘違い」のほかにケガに対するケアが必要です。上級生と対峙することでスピードやパワーの差に苦しむ、あるいは今まで以

来たときには、それに見合った努力をするつが見られる可能性があります。お子さんの方から「あれができない、できるようになりたい、なぜできないのだろう」という声が出たときにだけ助け船を出してあげるのが良いと思います。

ただし、要求に応えれば良いというわけでもありません。新しいスクールに通ったいとか新しいバイクが欲しいと言いだしたときには、それに見合った努力をするつ



上に踏ん張る力が必要になるという場面が増えるので、身体の負担が大きくなる可能が大きいです。そのため、ケガの予兆がないか様子を見ながら行なう必要があります。飛び級を経験した方が良いと思います。自分よりも体格の小さい同学年の選手とのプレーでは、いざとなれば力でねじ伏せることができるために、どうしてもプレーが粗くなりがちです。特に長身だった小学生の選手が、中学生や高校生になると体格差がなくなつて苦しむというケースが少なくありません。技術や戦術理解の面で成長するためには、体格の差で勝つという場面を減らすことで効果を得られることがあります。

お子さんが上手でない場合に起こりがちの現象は、親御さんがお子さんのプレーを重視するのが良いと思います。

## ファンルーツアカデミー

ファンルーツでは、サッカーという“あそび”をキーワードに、子どもたちの「生きる力」を育むプログラムをプロデュース。グラスルーツで活動する選手、保護者、クラブ、コーチへ向けて、サッカースクールを中心に、イベント、キャラバン、キャンプなど幅広い展開をしている。

[www.funroots.net](http://www.funroots.net)



ジュニアサカでは、みなさんがジュニアサッカーの現場でふだんから抱いている疑問を募集しています。巻末ハガキよりご投稿ください。

**コーチ・保護者のための  
ジュニアサッカーバイブル  
①～⑤絶賛発売中!!**

お買い求めはジュニアサカ ONLINE SHOPへ